

報告書案への意見

平木 敬

報告書案は、大筋においては賛成ですが、いくつか気になる点があります。

1. 性能目標とスケジュールに関して

2011年11月に10ペタフロップスの性能達成スケジュールでは、性能目標を達成する可能性が低いと判断したことは、開示しない部分に明記すべきと思います。もっとも議論した点の一つです。

2. ベクトル部の意義について

作業部会の意見では、ベクトル方式によるプロセッサの可能性、意義を否定するものではないが、詳細設計途中ではあるが本プロジェクトのベクトル部については、B/F比が低く、かつスカラ部と比較して大きなアドバンテージを実現することに成功していないと判断していると理解しています。表現を変えることが必要であると思います。

3. 留意事項

留意事項に、本プロジェクトの目標のひとつであった、下方展開の促進を実現するため、演算速度あたり単価を競合する海外システムと比較して競争力があるものとするのが重要であり、システムの実現に当たっては下方展開への競争力確保を課題としてとらえる必要があること、さらなる、コスト低下を目指すべきであることを明記すべきと思います。現状では、Intelの汎用プロセッサを用いたクラスタと比較して、2倍程度、BlueGene/Qと比較すると4～5倍、演算性能あたりの単価の差があると、説明資料から判断しています。

川添委員からのコメント

1. 3 ページのプロジェクト目標中

ナノテクノロジー分野

全く不可能だった酵素反応解析が実現可能となる・・・これはナノテクノロジーではないのでは？（例示と言ってもナノテクノロジーらしいもので御願います）

2. 3 ページのプロジェクト目標中

サイバーサイエンス・インフラストラクチャー・・・

全国のスーパーコンピューターセンターから次世代・・・ではないです！

利用者が自分のパソコン環境から、国のスーパーコンピューターセンターや次世代スーパーコンピューターを必要に応じてアクセスすることを可能とする、として下さい。（地球シミュレーターは最初、横浜に行かないと使えませんでした）

3. 9 ページ目にも同様の記述があります。

ここも同様に修正願います。

また「サイエンスグリッドNAREGIプログラムの研究開発」における成果が有効に活用される。

と書かれるのは極めて危険です。NAREGIを使って私のプログラムTOMB Oは実際に分散処理実行が出来ますが、他にこのようなグリッド対応をしている実用規模のソフトウェアはあまり見あたりません。1システム内でのMPIをグリッドと呼ぶのはまずいです。

やる見込みのないことを書くのは、最初から止めた方が良いです。

土井委員からのコメント

1) 中間評価作業部会報告書

②開発スケジュール

6/5に保守費とするかどうかで議論になったLSI分も含んで1154億円で収まるのでしたっけ？

2) 資料2

「システム構成」の2番目の箇条書きの意味が不明です。

また、細かいことですが、2011年でなく、平成23年とそろえるべきでは？